

令和6年度 職員アンケートの結果について

1 回答した職員について

- ・横浜氷取沢高等学校の教職員、20名。

2 質問内容について

グローバル教育に関するアンケート12問を令和7年3月に実施した。質問内容については次の通りである。

なお、質問内容については、令和4年度及び令和5年度に実施したものと、ほぼ同様のものとした。

(1) 次にあげる教育活動は、グローバル教育人材の育成やグローバル教育の推進に役立っていると思うか。

- ・英語の学校設定科目「コミュニケーションスキルズ」の設置と少人数教育
- ・校内英語スピーチ・プレゼンテーションコンテスト
- ・韓国、オーストラリア、ニュージーランドとの姉妹校等交流
- ・グローバル講演会（ラトガース大学の先生による講演会／武蔵野大学の先生による講演会／オーストリア大使による講演会／グローバル教育推進プロジェクト【G i F T】の理事による講演会）
- ・グローバル出張授業（アメリカ国務省職員）
- ・実用英語技能検定の1次試験会場
- ・G T E Cの受検
- ・大学の外国人留学生との交流
- ・外部機関（日本赤十字社など）との連携

(2) 「グローバル教育研究推進校」の取組の1つとして、グローバル人材の育成に向け、全教科共通のテーマ、「他者とのやりとりを通じて、多様な価値観を尊重し、自ら問いを見つけ、問題解決できる力を育む指導と評価の研究」を設定したが、授業の中で取組むことができたか。

※なお、このテーマは、県教育委員会の「グローバル人材に求められる力」の記載、及び「生徒による授業評価」の問2、問5に関連付けて設定したもの。

(3) 令和7年度以降、「グローバル教育研究推進校」の取組として、取り上げてみたい教育活動を答える。【任意回答】

(4) 本校では電子黒板を活用した授業を推進している。どのくらいの割合で利用しているか。「電子黒板を活用した授業」とは、電子黒板が設置されている教室において1回の授業で板書や口頭説明もあわせて活用した授業を表す。

(5) 電子黒板を活用することによって、「生徒が主体的に学習する活動」が増えることが期待されている。生徒の主体的な取組が増えたと思うか。

(6) 電子黒板を活用することによって、「生徒のグループ協働学習の活動」が増えることが期待されている。生徒のグループ協働学習の取組が増えたと思うか。

(7) 本校ではタブレット端末を活用した授業を推進している。どのくらいの割合で利用しているか。「タブレット端末を活用した授業」とは、1回の授業において板書、電子黒板、口頭説明もあわせて活用した授業を表す。

(8) ロイロノートを導入して5年目になる。授業の中で、どのくらいの割合で利用したか。

(9) ロイロノートを活用した項目を次の中から回答する。【複数回答可】

- ・生徒への資料・動画等の配信
- ・生徒からの回答の提出
- ・生徒からの課題の提出
- ・生徒の回答の共有
- ・プレゼンテーション
- ・シンキングツール
- ・カメラ・録音機能の活用
- ・自由記述

(10) タブレット端末を活用することによって、「生徒が主体的に学習する活動」の時間が増えることが期待される。生徒の主体的な取組が増えたと思うか。

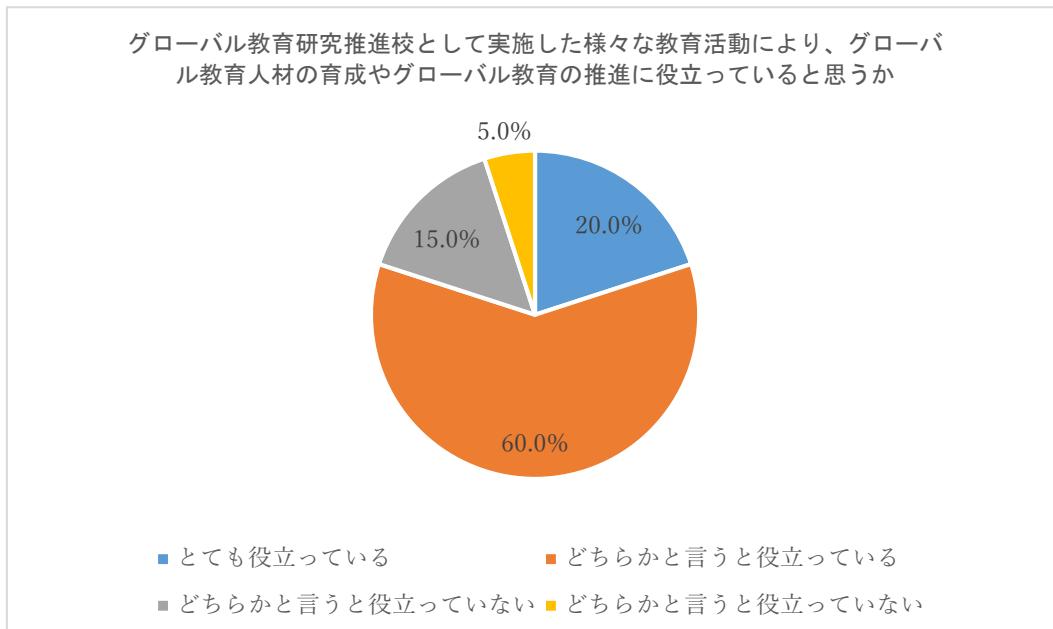
(11) タブレット端末を活用することによって、「生徒のグループ協働学習の活動」が増えることが期待される。生徒のグループ協働学習の取組が増えたと思うか。

(12) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業が、生徒の学力育成に対して、どのような影響があると思うか。【任意回答】

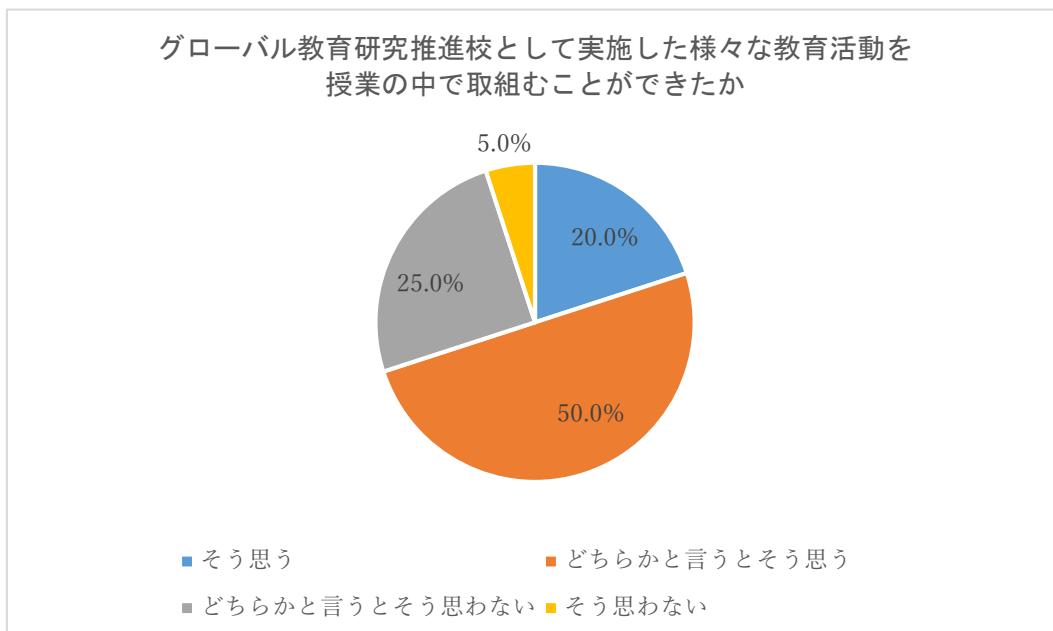
(13) 本校の「総合的な探究の時間」では、SDGs に関わる学習も取り入れている。自分の教科指導の中で、関連した授業展開ができたか。

3 回答結果について

(1) 「グローバル教育研究推進校」として実施した様々な教育活動は、グローバル教育人材の育成やグローバル教育の推進に役立っていると思うか。



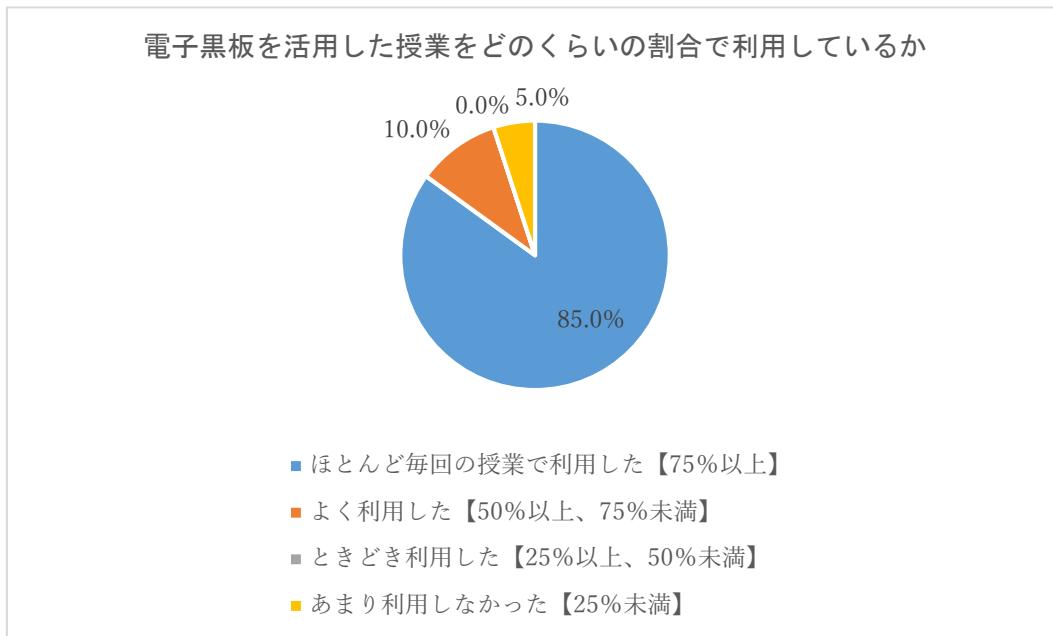
(2) 「グローバル教育研究推進校」の取組の1つとして、グローバル人材の育成に向け、全教科共通のテーマ、「他者のやりとりを通じて、多様な価値観を尊重し、自らの問いを見つけ、問題解決できる力を育む指導と評価の研究」を設定したが、授業の中で取組むことができたか。



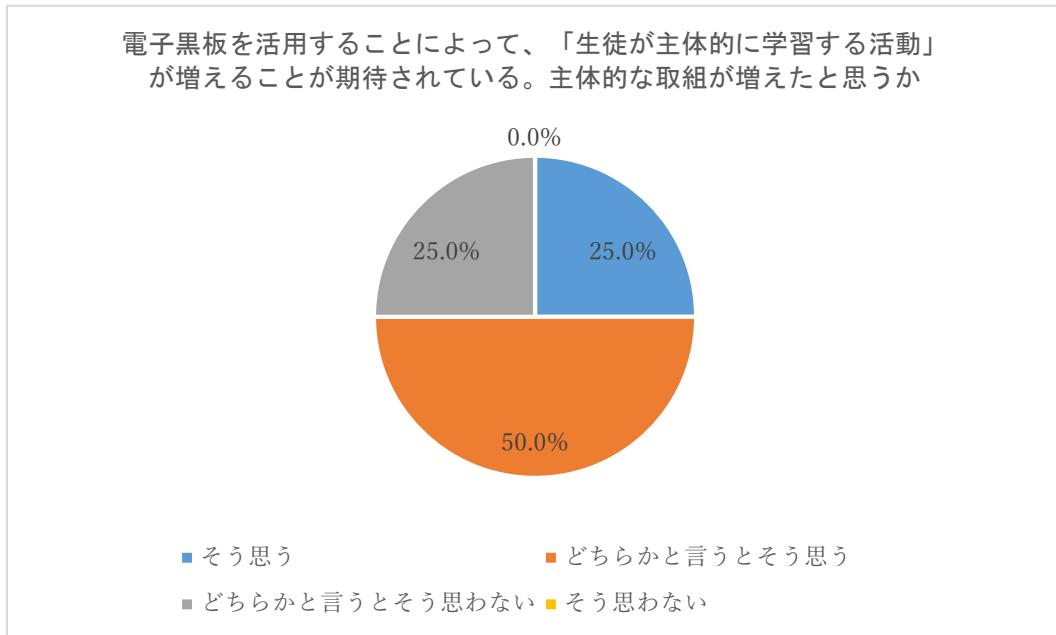
(3) 令和7年度以降、「グローバル教育研究推進校」の取組として、取り上げてみたい教育活動について回答する。任意の回答であったが5件の回答があった。

- ・総合的な探究の時間と英語のコラボレーションを行う。
- ・1年生のコミュニケーションスキルズⅠ内のプレゼンテーション指導のカリキュラムを作成する。
- ・日本語によるディベートを行う。
- ・自国の文化や言語について深く理解し、自身の言葉でよさを語ることができる生徒を育てる教育活動を実施する。
- ・ディベートを行う。(英語力が足りないとは思うが、国際バカロレア（IB）の主眼は、国際問題の複雑さを理解することだから)

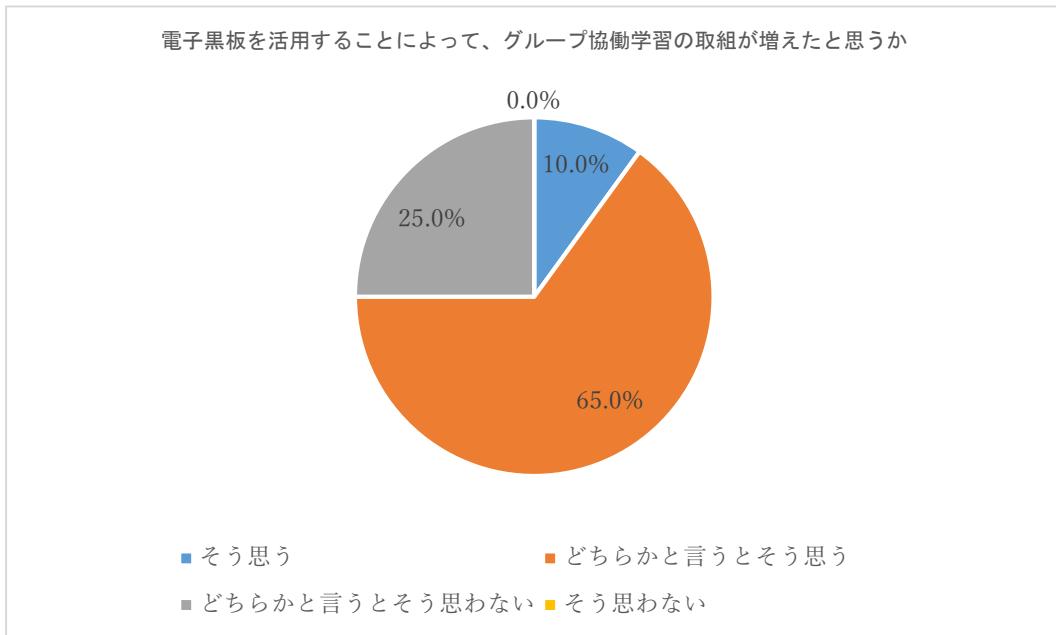
(4) 本校では電子黒板を活用した授業を推進している。どのくらいの割合で利用しているか。



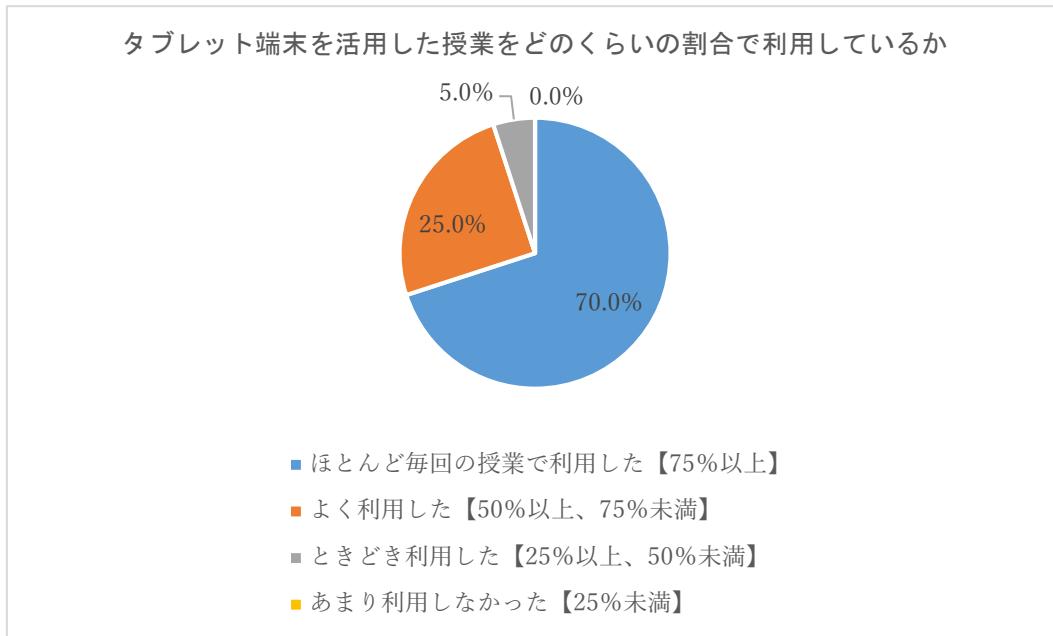
(5) 電子黒板を活用することによって、「生徒が主体的に学習する活動」が増えることが期待されている。生徒の主体的な取組が増えたと思うか。



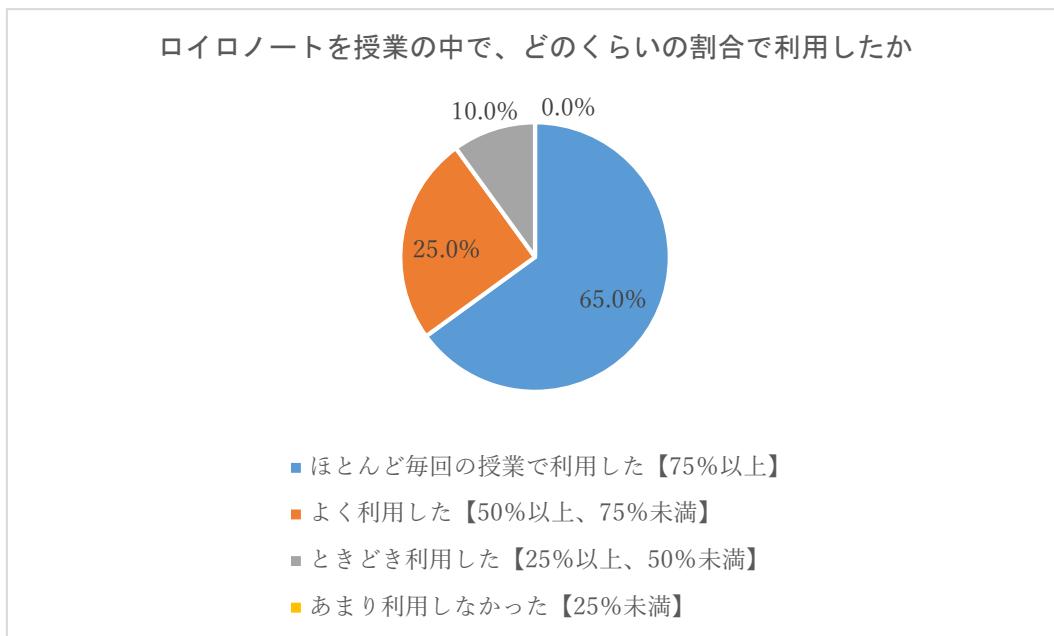
(6) 電子黒板を活用することによって、「生徒のグループ協働学習の活動」が増えることが期待されている。生徒のグループ協働学習の取組が増えたと思うか。



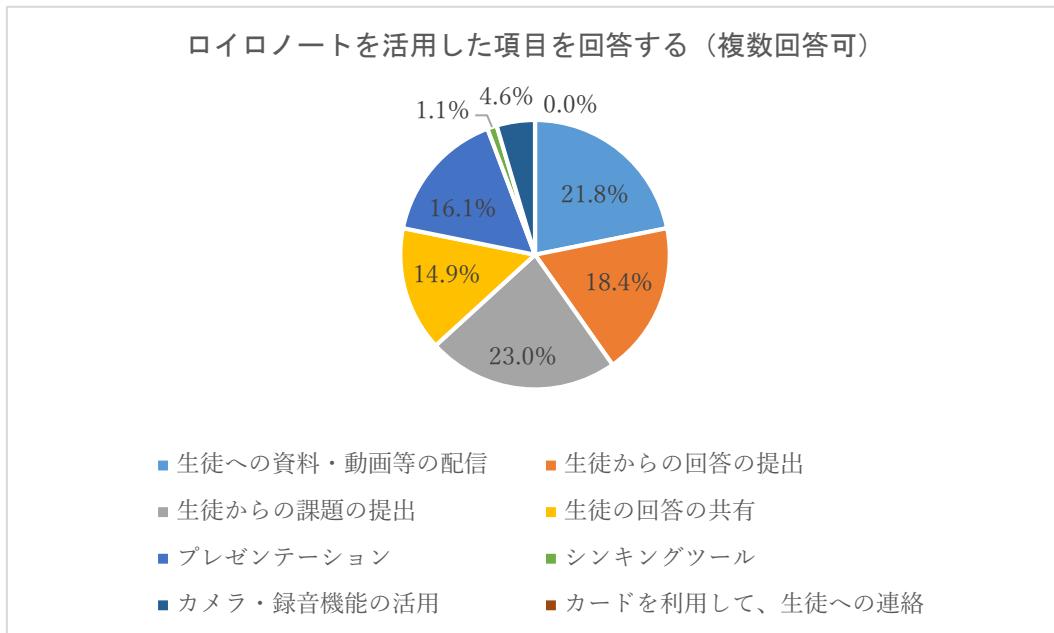
(7) 本校ではタブレット端末を活用した授業を推進している。どのくらいの割合で利用しているか。



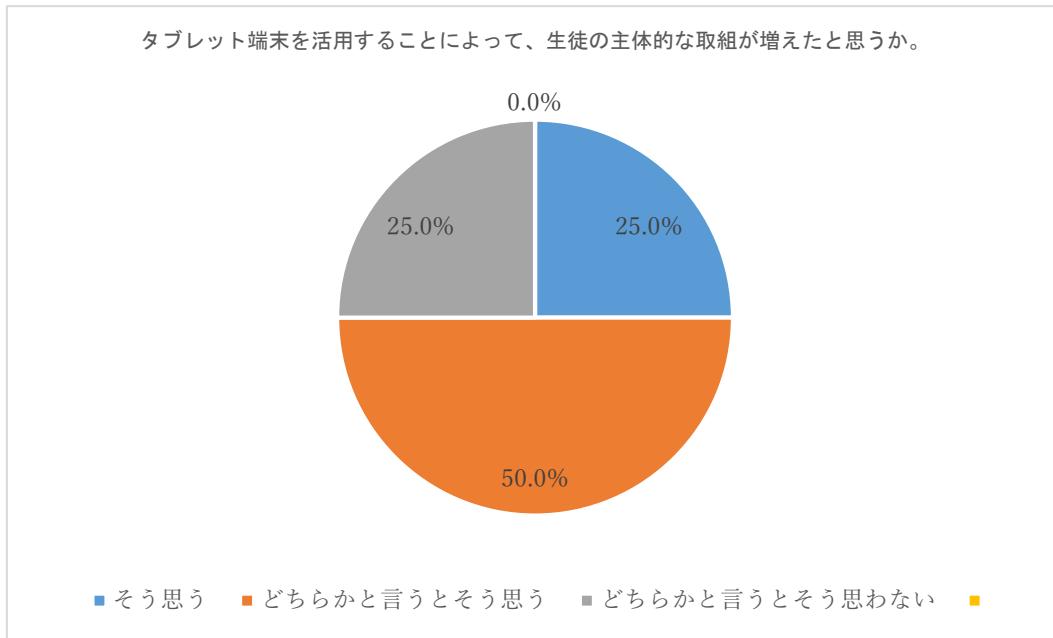
(8) ロイロノートを導入して3年目になる。授業の中で、どのくらいの割合で利用したか。



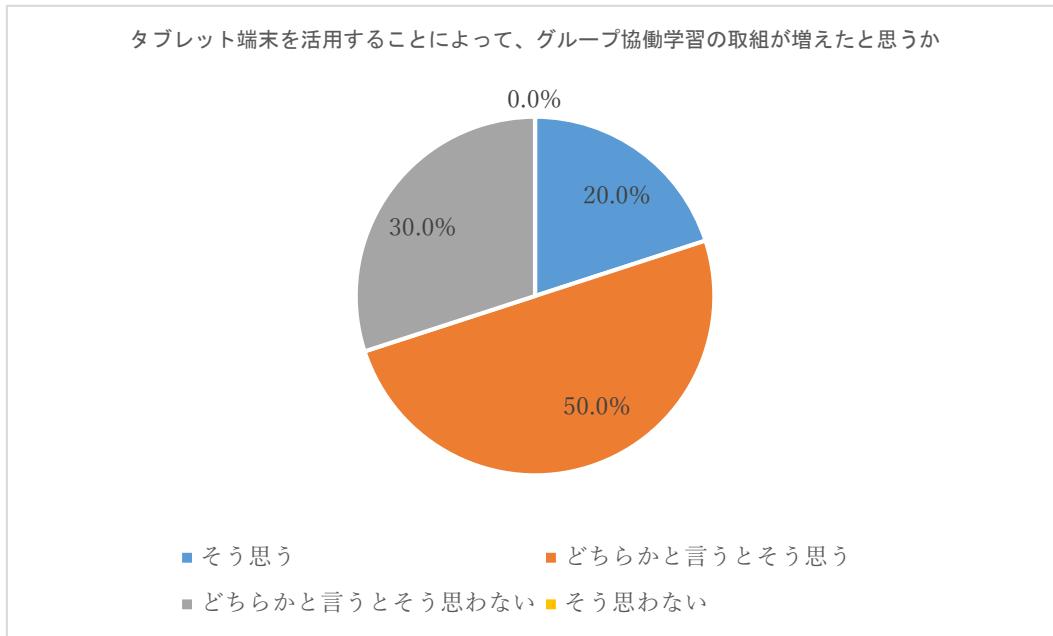
(9) ロイロノートを活用した項目は何か。【複数回答可】



(10) タブレット端末を活用することによって、「生徒が主体的に学習する活動」の時間が増えることが期待される。生徒の主体的な取組が増えたと思うか。



(11) タブレット端末を活用することによって、「生徒のグループ協働学習の活動」が増えることが期待される。グループ協働学習の取組が増えたと思うか。

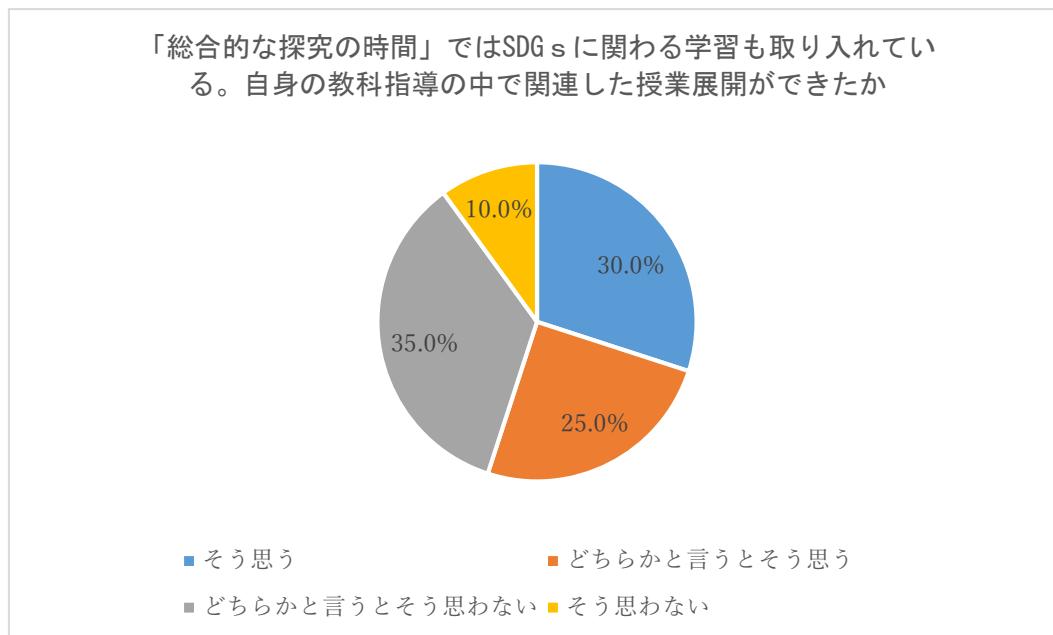


(12) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業が、生徒の学力育成に対して、どのような影響があると思うか。任意の回答であったが 7 件の回答があった。

- ・電子端末により学力が低下したフィンランドが紙媒体に変えているので、提示や共有は電子端末で、実際に解答や考えを書く部分は紙媒体で行えるとよいと考える。
- ・考えを共有する作業が無記名で、簡単に行える点（ロイロの提出箱を無記名にする）
- ・令和 6 年度の電子黒板は接続不良等で使えないことがあり、不便に感じることが多々あった。また、後ろの席から見えにくい（特にホワイトボードマーカーで書いた字は全く見えない）という欠点もあった。
- ・国語科としての視点では、生徒の漢字のミスや基礎的な文法の乱れがあまりに多いことも気になった。情報化がその一因といわれていますが、I C T 「教育」に問題があるわけではなく、時代の流れを考えると多少はやむをえないものかと思う。ただし、剽窃（ひょうせつ）の指導や、生成 A I の使用に関する指導、受け手に不快感を与えることのない適切な言葉をつかうための指導は必要不可欠だと考える。分野によっては関連教科の教員が中心となって、力を入れて指導をしていくべきだと思う。

- ・良い点としては、板書の時間の短縮により生徒の思考・活動の時間を確保することができたことがあげられる。口頭での説明を理解しにくい生徒に対して、実際にプリントの画像を示したり画面を共有したりすることで、授業の助けになったこともあった。物の管理が苦手な生徒も、ロイロノートであればプリントを紛失することなく学習できた。全員にとっての「わかりやすい、取り組みやすい授業」を考えるうえでは、電子黒板やタブレットは非常に役立ったと考える。
- ・学力育成には、ほとんど役立っていないと思う。むしろ、対面で、しっかり意見交換を行うことが優先で、その様子を細やかに観察する教員側の視点と、その場でのアドバイスが大切だと思う。この上で、対面条件が満たされない物理的制約があれば、オンラインもありだと思われる。初めからオンラインだと、細やかな指導ができない。理由は、生徒の掌握が一面的になってしまうからであり、これは、マークシートの試験などでも同様だと思う。生徒の問題点を細かく分析する機会をもっとたくさん設けるのが、期待されると思う。
- ・安易に答えを Google 検索する生徒が増えたと思う。

(13) 本校の「総合的な探究の時間」では、SDGs に関わる学習も取り入れている。自分の教科指導の中で、関連した授業展開ができたか。



4 結果の分析について

肯定的な意見と否定的な意見の回答割合を比較してみると、次の通りになる。

項目	年度	肯定的 (%)	否定的 (%)
(1) 「グローバル教育研究推進校」として実施した様々な教育活動は、グローバル教育人材の育成やグローバル教育の推進に役立っていると思うか。	令和4年度	92. 7%	7. 3%
	令和5年度	88. 5%	11. 5%
	令和6年度	80. 0%	20. 0%
(2) 全教科共通のテーマ、「他者のやりとりを通じて、多様な価値観を尊重し、自らの問い合わせを見つけ、問題解決できる力を育む指導と評価の研究」を設定したが、授業の中で取組むことができたか。	令和4年度	90. 2%	9. 8%
	令和5年度	88. 5%	11. 5%
	令和6年度	70. 0%	30. 0%
(4) 電子黒板を活用した授業をどのくらいの割合で利用したか。	令和4年度	95. 2%	4. 8%
	令和5年度	96. 2%	3. 8%
	令和6年度	95. 0%	5. 0%
(5) 電子黒板を活用することによって、生徒の主体的な取組が増えたと思うか。	令和4年度	83. 0%	17. 0%
	令和5年度	92. 3%	7. 7%
	令和6年度	75. 0%	25. 0%
(6) 電子黒板を活用することによって、生徒のグループ協働学習の取組が増えたと思うか。	令和4年度	75. 6%	24. 4%
	令和5年度	80. 8%	19. 2%
	令和6年度	75. 0%	25. 0%
(7) タブレット端末を活用した授業をどのくらいの割合で利用しているか。	令和4年度	82. 9%	17. 1%
	令和5年度	84. 6%	15. 4%
	令和6年度	95. 0%	5. 0%
(8) ロイロノートを授業の中で、どのくらいの割合で利用したか。	令和4年度	73. 2%	26. 8%
	令和5年度	84. 6%	15. 4%
	令和6年度	90. 0%	10. 0%
(10) タブレット端末を活用することによって、生徒の主体的な取組が増えたと思うか。	令和4年度	82. 9%	17. 1%
	令和5年度	88. 5%	11. 5%
	令和6年度	75. 0%	25. 0%
(11) タブレット端末を活用することによって、生徒のグループ協働学習の取組が増えたと思うか。	令和4年度	80. 5%	19. 5%
	令和5年度	92. 3%	7. 7%
	令和6年度	70. 0%	30. 0%

(13) 本校の「総合的な探究の時間」では、SDGs に関わる学習も取り入れている。自分の教科指導の中で、関連した授業展開ができたか。	令和4年度	68.3%	31.7%
	令和5年度	69.2%	30.8%
	令和6年度	55.0%	45.0%

(9) ロイロノートを活用した項目を次の中から回答する。【複数回答可】

※令和4年度の回答総数は154

令和5年度の回答総数は100

令和6年度の回答総数は 87

	割合 (%)		
	令和4年度	令和5年度	令和6年度
生徒への資料・動画等の配信	22.7%	25.0%	21.8%
生徒からの回答の提出	22.1%	19.0%	18.4%
生徒からの課題の提出	22.7%	21.0%	23.0%
生徒の回答の共有	14.9%	14.0%	15.0%
プレゼンテーション	9.1%	12.0%	16.1%
シンキングツール	3.9%	3.0%	0.1%
カメラ・録音機能の活用	3.9%	6.0%	4.6%
カードを利用して、生徒への連絡	0.4%	0.0%	0.0%

回答者数が20名と少なかったので、令和4年度、令和5年度と比べ、回答に大きく変化があった項目に注目してみたい。

まず、令和5年度と比較して変化の多い項目について見ると、「(2) 全教科共通のテーマ、「他者のやりとりを通じて、多様な価値観を尊重し、自らの問い合わせを見つけ、問題解決できる指導と評価の研究」を設定したが、授業の中で取組むことができたか」について、肯定的な回答が18.5ポイント減少した。これは、「生徒自らが問い合わせを見つけ（設定し）、問題解決する」という内容を授業内で設定するのが少し難しかったのではないかと考える。

「(5) 電子黒板を活用することによって、生徒の主体的な取組が増えたと思うか」、「(6) 電子黒板を活用することによって、生徒のグループ協働学習の取組が増えたと思うか」、「(10) タブレット端末を活用することによって、生徒の主体的な取組が増えたと思うか」、「(11) タブレット端末を活用することによって、生徒のグループ協働学習の取組が増えたと思うか」で、肯定的な回答がそれぞれ、17.3ポイント、5.8ポイント、13.5ポイント、22.3ポイント減少した。

これは生徒の主体的な取組や協働学習の取組が減少しているということであり、令和6年度は講義型の授業が増えているということであると考えられる。

一方で、「(4) 電子黒板を活用した授業はどのくらいの割合で利用したか」は95.0%、

「(8) ロイロノートを授業の中で、どのくらいの割合で利用したか」は90.0%とほとんどの教員が活用している。

令和7年度は、電子黒板やロイロノートを活用するだけではなく、活用した上で、生徒の主体的な取組やグループ協働学習の機会を増やすよう、各教員に促していく。

また、「(9) ロイロノートを活用した項目」では、「プレゼンテーション」の回答割合が令和4年度から毎年増加しており、この教育活動と生徒の主体的な取組やグループ協働学習の増加が結びつくような手立てを考えたい。

のことから、電子黒板やロイロノートの利用については引き続き行う一方、この二つのツールを使い、生徒の主体的な取組とグループ協働学習の機会を増やす取組について、引き続き考えていく必要がある。

そして、任意の記述回答では、「(3) 令和7年度以降、グローバル教育研究推進校として取り上げてみたい教育活動」で、3名の方が、「日本語のディベートもしくは、日本語で様々な表現ができること」を挙げている。英語教育だけでなく、国語教育の強化も必要と考える方が少なからずいることが分かった。